



岡山市水道事業審議会

第45回資料

平成 25 年 11 月 20 日(水) 14 時～

岡山市水道局水質試験所 2階 第2会議室

岡山市水道局

目 次

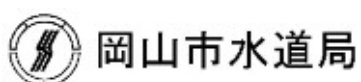
岡山市水道事業総合基本計画アクションプラン後期編の 平成24年度取組結果について・・・・・・・・・・・・・・・・	1
本局庁舎の建設について・・・・・・・・・・・・・・・・	7

岡山市水道事業総合基本計画

アクションプラン

平成 24 年度進捗状況報告

平成25年10月



アクションプラン後期編 平成24年度取組結果

平成24年度の執行額及び効果額は、次の表のとおりです。

1 事業費

(単位：百万円)

項目	総事業費 H24～H28	H24年度 執行額	執行率 (%)
1 安全でおいしい水の供給	925	1,480	160.0
2 信頼性の高い水道システムの確立	29,802	4,915	16.5
3 災害に強い水道づくり	1,451	247	17.0
4 お客様の満足に応える水道づくり	2,216	402	18.1
5 行財政改革の推進等による経営基盤強化	41	5	12.2
6 資源循環型の水道システムの構築	478	146	30.5
合計	34,913	7,195	20.6

2 「5 行財政改革の推進等による経営基盤強化」による効果額

項目	H24年度目標	H24年度実績	目標額との差異
経費節減額	184 百万円	548 百万円	364 百万円
事務事業、組織機構の見直し	120 百万円	414 百万円	294 百万円
支払利息	49 百万円	62 百万円	13 百万円
職員数の目標	358(▲2)人	351(▲9)人	7人

企業債残高	296 億円	286 億円	10 億円
-------	--------	--------	-------

平成24年度の主な取組結果

1 安全でおいしい水の供給

目的

お客様に安全でおいしい水をお届けするために、水源、浄水、配水、給水の各過程での管理、検査体制を向上させます。

✚ 浄水処理施設の更新：1,320百万円

クリプトスポリジウム対策を強化等するため、平成21年度から実施していた三野浄水場1・2号急速ろ過池設備整備工事が完工しました。

更新した急速ろ過池全景



✚ 直結給水の推進

貯水槽方式と比べて衛生的で省エネにもつながる直結給水方式を推進しました。

実績：

直結給水方式への切替件数 15件

✚ 鉛製給水管の解消：139百万円

水質の安全性確保及び漏水の防止のため、公道部分の鉛製給水管の解消を図りました。

実績：鉛製給水管の解消率（24年度）	3.3%
〃（累計）	84.9%

2 信頼性の高い水道システムの確立

目的

計画的に老朽施設を更新するとともに、水需要に応じた施設整備を行い、将来にわたる水道の安定供給を目指します。

✚ 老朽管の更新：4,437百万円

✚ 石綿管の更新：177百万円

赤水の発生や漏水及び破損事故を未然に防止するため、老朽化した水道管の計画的更新や石綿製の水道管の解消を行いました。

なお、平成25年度までの継続事業として市内中心部へ配水する上で重要な役割を果たす中央幹線（三野～番町間延長約2.5km、口径1200^{mm}～800^{mm}配水管）の布設工事は、番町交差点までシールドマシンが到達し、掘削工事が完了しました。

実績：老朽管更新延長(24年度) 45.3km
 ” (累計) 122km

実績：石綿管解消率(24年度) 4.3%
 ” (累計) 94.2%

3 災害に強い水道づくり

目的

管路・施設等の耐震化を進めるとともに、災害発生に備えて復旧体制、給水体制の強化に努めます。

✚ 基幹配水池の耐震化：209百万円

✚ 水道管路の耐震化(「老朽管の更新」で事業費一括計上)

地震等災害の発生時における生活必要水を確保する目的で、実施していた操山配水池の耐震補強工事及び矢坂山加圧ポンプ場耐震化工事が完工しました。

震災対策として管路被害を最小限にとどめるため、平成24年度から口径50^{mm}及び75^{mm}の小口径配水管の布設に耐震性を備えた『配水用ポリエチレン管』を標準採用し、すべての管路に耐震管を布設しています。



耐震管布設の様子

実績：管路耐震化率(24年度) 1.3%
 ” (累計) 11.0%

実績：配水池耐震化率(24年度) 1.9%
 ” (累計) 43.2%

✚ 三野浄水場非常用発電機整備：28百万円

災害等の非常時において電力が遮断された場合でも施設を稼働させ給水が確保できるように、三野浄水場非常用発電機の整備に着手しました。

✚ 応急復旧体制の整備

地震・風水害等の災害及び水道施設の事故などが発生した場合、局が行う応急給水活動等の支援・協力体制を構築することを目的に、検針及び料金徴収業務の受託者である第一環境㈱と災害時等における支援及び協力に関する協定を締結しました。



協定の調印式(平成24年8月28日)

4 お客様の満足に応える水道づくり

目的 お客様窓口の改善、広報・広聴の充実等、お客様の視点に立ったサービスの提供を推進します。

✚ おかやまの水のおいしさ、大切さを伝えるPR活動



出前講座の様子(富山小学校)

水道水のおいしさや安全性をより知っていただくため、水道フェアや水道記念館でイベントを開催しました。情報提供の手段としてホームページやアクア通信でイベント案内、寒波対策等の周知等を行いました。

また、水道の役割や仕組みについて実験等を通しわかりやすく説明する出前講座を、富山小学校と高島フェスタで開催しました。

なお、平成24年度の水道記念館の年間来館者数は過去最高の10,789人を記録しました。

実績: イベント来場者数	3,671人
ホームページアクセス数	75,110件

5 行財政改革の推進等による経営基盤強化

目的 限られた財源を有効に活用し、安定的な事業運営を継続させるため、経費節減等の行財政改革を継続します。また、効率的な事業運営を図るための組織を構築し、原動力となる職員の技術の継承、人材育成に努めます。

✚ 行財政改革の推進

スリムで効率的な事業運営を目指し、事務事業の見直しを行いました。

実績:	
事務事業等見直し額	414百万円
企業債利息削減額	62百万円
企業債残高	286億円

また、将来の財政負担の削減及び財政基盤の強化を図るため、企業債残高及び支払利息の削減を行いました。

✦ 組織の活性化と技術の継承

水道技術の継承と人材育成のため、人材育成マスタープランによる局内研修や職場の専門的知識を高めるOJTを実施しました。

また、水道技術研修所において応急給水研修（主に事務系職員）、維持管理研修（主に技術系職員）などの研修を実施しました。

実績：1人当たり研修時間 15.8時間



応急給水研修の様子

6 資源循環型の水道システムの構築

目的

水道事業は循環資源である水を利用し、24時間安定供給のために電力等多量のエネルギーを使用しています。地球環境に配慮することは社会的な責務であり、環境保全活動、エネルギーの有効利用等を引き続き実施していきます。

✦ 環境負荷低減への取組

ISO14001に準拠した水道局独自による環境マネジメントシステムを運用し、電力使用量削減、ごみ排出量削減等の環境負荷の低減に努めました。結果は、環境報告書を作成し、局ホームページに掲載しています。

実績：独自マネジメントシステムの継続運用

✦ 漏水防止事業の推進：69百万円

水資源を有効に利用するため、予防対策に重点を置いた漏水防止事業を推進しました。

**実績：
有効率 90.3%**

✦ 浄水発生土の有効利用

資源の有効利用と処分費用の削減を図るため、浄水過程で発生する脱水ケーキを園芸用土として販売しました。

**実績：
有効利用率 100%**

本局庁舎の建設について



岡山市水道局

現行庁舎の問題点

- ・鉄筋コンクリート建築物の法定耐用年数 50年
昭和38年の竣工時から、50年が経過
- ・昭和56年以前の建築物
現在の耐震基準を満たしていない
- ・平成9年耐震診断実施
震度6強の地震を受けた場合、中破または大破の被害を生じることが想定される
- ・諸設備の老朽化

